

かながわ さとおや

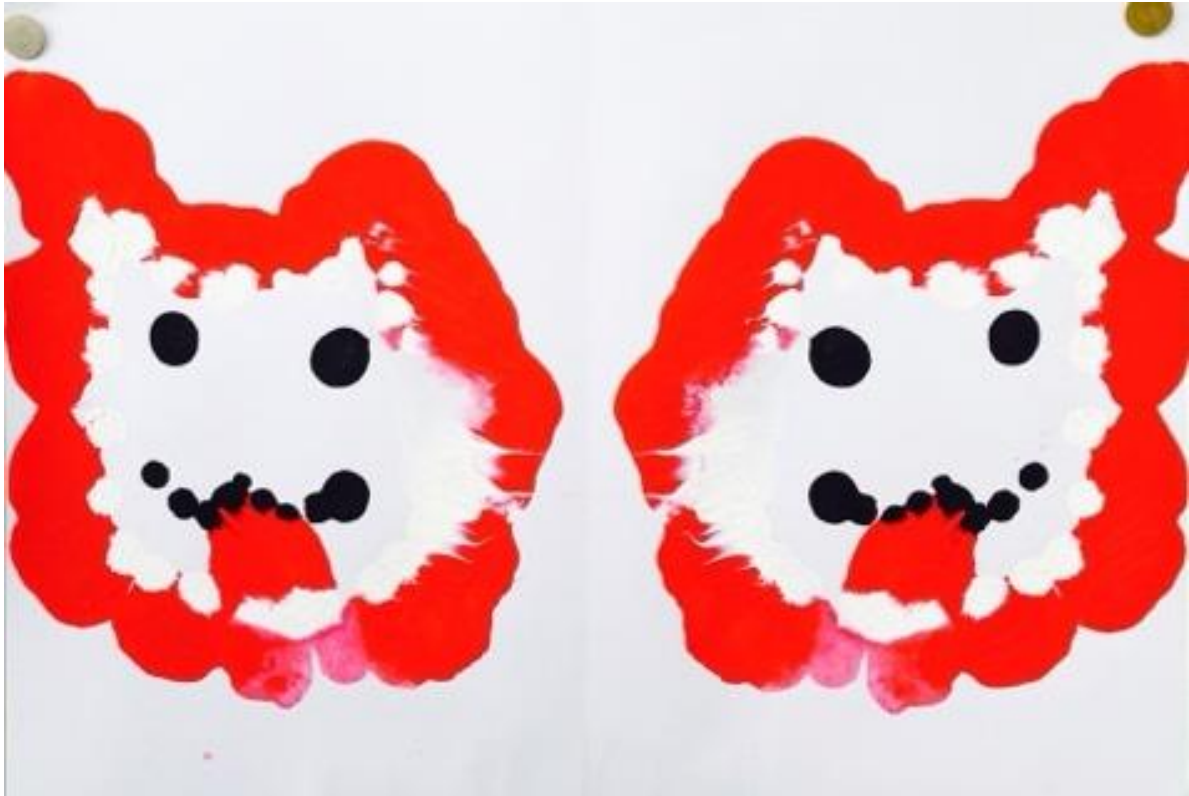
平成 28 年 9 月発行

発行 神奈川県里親会事務局

藤沢市みその台 1－3

聖園子供の家 気付

TEL 090-7630-4131



妖怪ジバニャン M美ちゃん（8歳）

☆もくじ☆

・ 神奈川県会長・副会長挨拶	2
・ 児童福祉法改正等のポイント	3
・ 研修会報告～里親センターひこばえより～	4
・ 里父の集い&里父のタベ	5 ～ 7
・ 地区だより*拡大版*	8 ～ 12
・ 編集後記	12



ようしくお願いします！

神奈川県里親会会長就任挨拶

西湘なでしこ会 本多洋実

県里親会会長のバトンを引き受けました本多洋実（ほんだひろみ）と申します。我が家の場合、里親会活動は妻・一重（ひとえ）のほうがずっと長く関わっています。「西湘なでしこ会の本多」と言えば、それはたいていは妻のことです。私は「県里の本多」と、皆さんに覚えていただけるよう努力しますのでようしくお願いします。

日ごろ、里親は子どもと楽しく真剣に関われば良いと考えています。どうせ里親するなら楽しくなくちゃ、楽しくするのは子どもを変えるのではなく、自分が変わることと学びました。里親会活動も楽しく進めていきたいです。幸い、頼りになる二人の副会長さんに恵まれました。各地区の会長さんはじめ理事・評議員の皆さんの力をお借りして、県里親会のかじ取りを進めます。

渡辺余旨子前会長さんのこれまでの県里親会に対するご尽力に対し、心から感謝申し上げます。これからもご指導ようしくお願いします。

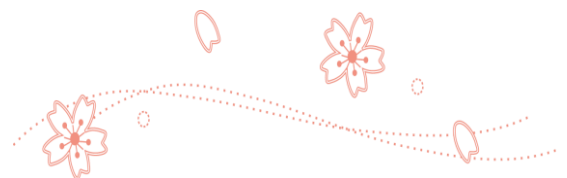
神奈川県里親会会長退任挨拶

鎌倉三浦地域里親会 渡辺余旨子

一身上の都合により会長職を辞する事になりました。

何もわからないまま引き継いで6年。日本で開催されたIFCO大阪大会に始まり、さまざまな変革が続いています。児童代替的養護に関する国連指針により、厚労省、行政、児相、施設、里親会など関係機関が協働することが求められます。子どもたちの最善の利益のために、一丸となって考えていく時が今だと思います。今後、チーム支援体制の確立や地域との連携が重要になると考えられ、そのために里親の意識向上に期待します。

神奈川県里親会は全国、関東甲信越静などの関係機関との連絡等、事務局の充実は不可欠です。残念ながら、その運営は今一つというところが現状です。新体制に神奈川県里親会の建て直しを託します。大きな課題を残していきますが、どうぞようしくお願いいたします。



神奈川県里親会副会長就任挨拶

県央里親会

岡 清子

鎌倉三浦地域里親会

栗原雅代

この度、副会長に就任いたしました岡清子、栗原雅代と申します。

副会長になり、神奈川県里親会としての役割とは何か、社会的養護を必要とする子どもたちのために何をすべきか、どのように里親の要望を纏めていけばよいか、これからたくさん勉強していかなければと考えております。

皆さま方にはたくさんのお知恵を拝借して、本多会長と共にふたりで力を合わせてこれから里親会のために仕事をさせていただきたいと思います。

どうぞようしくお願いいたします。

児童福祉法改正等のポイント

児童福祉法等の一部を改正する法律が今年5月27日に成立しました。里親に関すると思われる部分について編集委員会で抜粋しアンダーラインを入れましたので参考にしてください。

全ての児童が健全に育成されるよう、児童虐待について発生予防から自立支援まで一連の対策の更なる強化等を図るため、児童福祉法の理念を明確化するとともに、母子健康包括支援センターの全国展開、市町村及び児童相談所の体制の強化、里親委託の推進等の所要の措置を講ずる。

1. 児童福祉法の理念の明確化等

(2) 家庭と同様の環境における養育の推進 *国・地方公共団体は、児童が家庭において健やかに養育されるよう、保護者を支援するものとする。ただし、家庭における養育が適当でない場合には、児童が家庭における養育環境と同様の養育環境において継続的に養育されるよう、必要な措置を講ずるものとする。(児童福祉法)

(4) しつけを名目とした児童虐待の防止 *親権者は、児童のしつけに際して、監護・教育に必要な範囲を超えて児童を懲戒してはならない旨を明記。(児童虐待防止法)

2. 児童虐待の発生予防

(2) 支援を要する妊婦等に関する情報提供 *支援を要すると思われる妊婦や児童・保護者を把握した医療機関、児童福祉施設、学校等は、その旨を市町村に情報提供するよう努めるものとする。(児童福祉法)

3. 児童虐待発生時の迅速・的確な対応

(2) 市町村が設置する要保護児童対策地域協議会の調整機関について、専門職を配置するものとする。

(4) 都道府県は、児童相談所に①児童心理司、②医師又は保健師、③指導・教育担当の児童福祉司を置くとともに、弁護士の配置又はこれに準ずる措置を行うものとする。

4. 被虐待児童への自立支援

(1) 親子関係再構築支援について、施設、里親、市町村、児童相談所などの関係機関等が連携して行うべき旨を明確化する。

(2) 都道府県（児童相談所）の業務として、里親の開拓から児童の自立支援までの一貫した里親支援を位置付ける。

(3) 養子縁組里親を法定化するとともに、都道府県（児童相談所）の業務として、養子縁組に関する相談・支援を位置付ける。

(4) 自立援助ホームについて、22歳の年度末までの間にある大学等就学中の者を対象に追加する。

以上



里親センターひこばえ

矢内陽子

皆さまには既にご案内させていただいておりますが、昨年まで各地区の家庭養育支援センターごとで開催していた里親研修を、今年度は家庭養育支援センターと里親センター共催という形で年度初めに1年間の研修計画を立てて実施することにいたしました。

その第1回目の研修として5月8日（日）に相模大野のユニコムさがみはらにて「里父の集い&里父の夕べ」を行いました。

第1部は里父20名、里母11名、児童相談所職員4名、施設職員16名の51名の参加となりました。

3名の里父の体験談を聞いた参加者からは

- ・共感できることが多く、また今後の参考になる話が聞けてとても有意義だった。
- ・他の里子の行動や自分とは違う体験が聞けて大変参考になった。また、やってほしい。
- ・これまでの研修は里母からの話を聞くことが殆どだったので、同じ立場の男性の話は身近で肩の力を抜くことが出来たように思った。
- ・里父の実体験や悩みが伝わってくる会で良かった。参加者皆が共感できたことが大きな成果だと思った。
- ・なかなか聞くことのできない里父の本音が聞けて良かった。皆同じ思いなのだと感じた。等の感想をいただきました。



第2部も里父や児童相談所職員等29名の方にご参加いただき、さらに本音トークで盛り上がり、とても賑やかな会になりました。会の最後には「是非またやりたい」という声があがり、今回の担当だった相模原南児童ホームの長田さんが「来年もやります!」と宣言をして終わる形となりました。

次回の研修は10月3日（月）聖園子供の家にて「みんなで学ぼう～こどもの権利をどう考える～」(仮題)を予定しています。参考資料として「弁護士に聞く 里親として知っておきたいこと一改訂版」を使って

- ・医療について（精神科の受診）
- ・守秘義務について
- ・子どもへの注意の仕方

等についてグループディスカッションをしながら皆で考えていきたいと思っています。詳細が決まり次第、里親センターひこばえのHPに掲載しますので、是非ご参加下さい。



5月8日・里父の集い

～里父の集い～

< 5月8日(日)相模大野ユニコムさがみはら >

体験発表 湘南・大和里親会 塩谷伸一

「里父」だけではなくて

「里父の集い」で発表させていただいた内容の中から、「現状維持ではなく、一步先へ」を主眼としたものを箇条書きします。

- ・今まで里親をやって来られたのも、周りの方々からの力強い応援があったから。特に近所の里親は心強い。困ったら相談できる里親を見つけておくこと。そして、困っていそうな里親がいたらつながりを持ちに行くこと。
- ・児童養護施設の子だから問題行動をするのではなく、どんな子でもそういう環境に置かれればそうなる、ということはまだ社会的に認知されていない。これから委託される方は「委託される子どもは問題行動を起こすもの」と思っておいた方がいい。
- ・里親制度は、夫婦揃って活動できて初めて機能するものだと思う。里母1人だけの養育には限界がある。里父のより積極的な関与を期待したい。
- ・里子でなくても大変な家庭環境に置かれている子どもは多い。それに比べたら、多くの大人達が関

わってくれているだけ、里子の方が恵まれていると思えなくもない。社会の中での子育てのモデルとして、里親制度を示せるようになるといい。

- ・各地の児童相談所、児童養護施設、里親間で建設的な協力関係を築き上げるべき。上下関係は不要。人は同じ場所に長くいれば腐ってくるし、短い間しかないだと無責任になる。馴れ合いではなく、「しっかり仕事をしているか」をお互いにチェックするといった厳しさも必要。
- ・大人に翻弄された不遇な目の前の子ども達に「普通の生活」を提供することが、里親にとって一番大事な仕事。しかしながら、児童養護施設も里親も要らない社会が本来的に理想であり、そのために里親が社会で果たせる役割はたくさんある。特に里父はそういう見方が得意なはず。現場での見識を基に、現行の里親制度や関連の法律のどこに問題があり、どうあるべきかについてどんどん話し合い、新しい動きを創り出していければよいと思う。



体験発表 さがみの里親会 田中穰一

里父の役割 ～我が家編～

私は、主に娘との出会いを中心に話をしながら、私が普段、気をつけていることや子どもとの関わり方について話をしました。

我が家では、現在二人の子どもがいます。娘は、2歳の時に我が家にやってきて、6歳の時に特別養子縁組をしました。現在小学校2年生です。もう一人は、4歳になる男の子で、こちらは、我が家に来てまだ1年弱といったところです。

自分たちで望んで始めたこととはいえ、やはり子どもを引き取って育てるということは、喜びも多い半面、様々な負担もあります。その負担は、普段子どもと接する時間の長い、母親の方がより大きいのではないかと思います。

実際、私の妻も、子育てのストレスや疲れが原因で、円形脱毛症になったり、気管支炎になったり、それが原因で肋骨を折ってしまったりしました。

父親である私も、できる限り子育てに協力していきたいところではありますが、実際には日中は仕事でほぼ関わることができないのが現状です。そんな中、私が特に気をつけていたこと(特に子どもがきて間もない時期に)を4点ほどお話しさせていただきました。

① 妻の話はとりあえず毎日聞く

話をすることで、すっきりとすることもあると思います。その中で、子育てについて、一緒に考えることもできました。

② ①と関連して、それは違いうだろうと思っても指摘しない

妻の話を聞いていると、「それはどうなんだろう」と疑問に思ったり、「こうすればいいのに」と言いたくなることもありました。妻のやり方を尊重してなるべく自分の考えを押し付けないようにしました。

(あくまでも自分としてはそうしたつもりですが、妻は異論があるかもしれません)

③ 休みの時にはなるべく一人にする

私の場合は、出歩くことが苦にならないので、ハイキングに連れ出すことが多くありました。平日、一緒に居れない分、子どもと過ごす時間が多くとれました。妻は、その間ほっと一息つけるわけです。

④ 子どもには、明確な態度で接する

母親の多くは、どうしても感情が先に走ってしまう傾向が強い(あくまでも私の印象です)のではないかと思います。その分、父親は、感情に流されることなく、是々非々で接することが大切かなと思っています。なかなかできないことも多いですが...

あくまでも我が家における、私のやり方ですので、絶対正しいわけでもありませんし、異論もあると思いますが、何かの参考になればと思い、以上のような話をさせていただきました。



体験発表

西湘なでしこ会 本多洋実

里父、頑張ります！

お世話になった里親支援専門相談員さんから依頼され引き受けました。もちろん本音は懇親会目当てです。今思い出しても、里父の皆さんとの飲み会はとても楽しく旨いビールでした。次はいつ開かれるのかなと楽しみにしています。

さて、当日は里父の立場からの報告なので、日ごろの妻への感謝も込めて里母は大変だという話と、里父の私の役割について少し話をさせていただきました。

仕事以外にも役割(ボランティア活動)を持つ私としては、自宅にいる時間が極めて少なく、出張も多いです。おのずと子どもに接する時間は少なくなります。その反対に里母は学校へ子どもを送り出してから、帰宅するまでの間に自分の用事を済ませなくてはなりません。学校が休みの時は24時間一緒ということになります。どこの子育て家庭でも同じ

ですので、そのこと自体、妻は覚悟していたのですが、時間を守ることが苦手な里子の時には困り果てました。探し回るのが苦労でした。

私が家にいるときには妻の負担を軽減しようと、子どもを誘って洗車やタイヤ交換、釣りやサッカー、公園へ誘っていました。

洗車は自宅で手洗いでも、スタンドでの洗車機でも、子どもは大喜びで手伝ってくれます。タイヤ交換は、ジャッキアップの方法からナットの締め具合まで興味津々で手伝ってくれました。「里父にできて里母にできないこともあるんだぞ!」の気分です。

里親になろうと誘ったのは私の方からでした。夫から妻に里親になることを提案することは珍しいそうです。よく驚かれます。

きつとうちの妻は家でも里親会でも一生懸命に

働いているので、他の人から見たら、我が家は妻主導で活動していると思われるかもしれませ

ん。いつも感謝しています。ありがとう。



感想 ひらつか里親会 山田 肇

「里父の集い&里父の夕べ」に参加して

平成 28 年 5 月 8 日、ユニコムプラザさがみはらにて、第 1 部「里父の集い」第 2 部「里父の夕べ」が開催されました。

里父は平日開催されるサロンや研修などにはなかなか参加する事が難しく、里母の様に里父同士の繋がりというものがないのが現状かと思っています。

その中で、里父の集いという研修&サロンが開催された事は、これからの里父にとって大きな第一歩となった様に思います

研修では 3 人の里父さん達が日々の生き生きとした毎日の話、キレイ事だけではなく、正直な里子と夫婦の悪戦苦闘話を面白おかしく話され、里親になって疑問に思った事や問題提起などもあり、真剣に熱く話され盛り沢山な内容となりました。

里子との生活の中で、あまり問題なく楽しく過ごされている話などは、何かの折につけ聞く事がありますが、悪戦苦闘現在進行形の話は中々聞く機会はありません。

成功例の様な話ばかりされるより、多かれ少な

かれ我が家だけではないと励まされた里父さん達が多くいたのではないのでしょうか・・・

第 2 部での里父の夕べは近くの居酒屋へ場所を移し開催されました。

楽しい酒の席ということもあり意見交換も活発に行われ、里父にも悩みや迷いが当然あること、生活環境が大きく変わった事の戸惑いなど男同士だからこそ分かりあえる話もあり、仲間意識も芽生えたように感じています。

また里父目線からみる里親会の在り方や里親の在り方、里親になってからの夫婦の連携についてなど意見も交わされ、和気あいあいと楽しい時を過ごさせて頂きました。

日々仕事に追われ子どもが寝てから帰る里父の多くが、子育ての具体的協力が難しいのが現実かと思っています。

ならばせめて里母の 1 日あった出来事に耳を傾け、良き話し相手になることも、まずは子育ての協力になるかな？っと、毎日は無理かな？などと、宴の余韻に浸りながら電車で揺られ思うのでありました。

神奈川県里親会会長表彰

おめでとうございます

県央里親会	西川 博之・和美夫妻
西湘なでしこ会	本多 洋実・一重夫妻
	高橋 祐興・千晶夫妻
ひらつか里親会	宮嶋 裕・久枝夫妻

<地区だより>

湘南・大和里親会

「里親サロンに参加して」

私は今年の2月下旬より里子を家に迎えました。現在里子は2歳になりました。委託されてから、未就園児サロンなど同年代の里子を持つ里親さんと交流する機会はありませんでしたが、それ以外の里親さんとの交流はほとんどありませんでした。今回のサロンは開始時間より遅れての参加でしたが、皆さん気持ちよく迎えてくれました。自己紹介した後、近くに座っていた里親さんがすぐに声をかけてくださいました。私は里子を迎えて最初の2ヶ月生活が変わって大変だったことや最近の心境など話しましたが、黙って話を聞いて頷いてくれました。また、先輩里親さんからは今までの子育ての話し、現在その子がこんな風になったなど話を聞かせて頂きました。皆さん里子の話をする時、とても嬉しそうにお話するのが印象的でした。



先輩里親さんの話を今の自分に重ね合わせて、今の子育てでいいのかなと思ったり、まだまだ自分には足りないところがあるなと感じたり。先輩里親皆さんそれぞれの苦労や経験がある分自信みたいなものが感じられて改めて頼れる存在だなと思いました。「何でも聞いて」という言葉をかけられて、まだ子育てに未熟な私には心強く感じました。

湘南・大和里親会 村井恵美子

「夏のリクリエーション」



7月10日 藤沢市にある弁慶果樹園にて夏のリクリエーションを開催いたしました。お陰さまで前日は悪天候でしたが、晴天に恵まれ夏らしい日差しの中、50名を超える参加者の皆さんとBBQを楽しみました。

お父さん方が熱い炭の前で、焼き担当をしてくださり、本当においしいBBQでした。子どもたちはみな元

気いっぱい野原で虫とりやポニーとふれあいました。スイカ割りもカー杯に挑戦し、盛り上がりました。お楽しみの当てくじも何が当たるか目をキラキラさせながら、順番を守り楽しんでいました。

中央児童相談所と各施設の職員の方々も、暑い中早くから準備や駐車場への誘導や子どもたちの見守りなど、ご協力くださり心よりお礼申し上げます。

行事担当 山口久美子



<地区だよ！>

ひらつか里親会



「第29回神奈川県里親大会開催準備にあたって」

ひらつか里親会では昨年度より、第29回神奈川県里親大会の準備会を立ち上げ、大会開催の準備を進めています。

会場・日時・テーマの検討、講師の手配、各役割分担、予算額の確認、チラシ・ポスターの作製、市町村・福祉団体等への共催・後援依頼、会場の設営準備、当日のプログラム・スケジュール等々…挙げたらきりがなほどの膨大な準備項目に、最初はどこからどの様に手を付けていいのかわからない状態でした。

それでも理事全員が実行委員会のメンバーになって準備会の回数を重ねていくうちに、県大会の枠組みが少しずつ形作られていき、最初はぼやけていた大会の輪郭も次第にはっきりしたものとなり、現実味を帯びてきた感じがします。

ひらつか里親会が発足して3年目。会員数もまだまだ少なく、里親同士互いの交流も深いとはいえなかった状況でのスタートでしたが、準備を進めていく中で、一つの目的を達成するため力を合わせ、互いの信頼関係も深まったような気がしています。

定員500名のホールを貸し切り、県内の里親をはじめ、各関係団体から一般の方までを対象とした大規模な大会開催の準備運営には全くの素人である私達が、主となって取り仕切るとするのは、負担も大きく荷が重い、というのが正直なところです。「養育している子どもに負担がいくようでは本末転倒ではないか」「大会の実行委員会担当は里親にとってかなり負担が重いと感じる」などの意見もありました。

とは言っても、力を合わせて県大会を盛り上げていこうという気持ちは皆同じで、大会の成功に向けて、日々努力を重ねています。

大会における里親の負担を少しでも軽くするためには、次年度開催地区への円滑な引継ぎのために文書記録をしっかりと残し、開催にあたってのベースを作っておくことではないかと思われます。

末筆となりましたが、準備にご協力頂いております児童相談所・各施設関係者・各里親会の実行委員の皆様へ深く感謝し今後もご支援をお願いいたしますと共に、一人でも多くの方のご参加を切に願っております。

ひらつか里親会理事一同



第29回神奈川県里親大会 『あなたをずっと見守っているよ。』

開催日：2016年11月19日(土) 場所：二宮生涯学習センター ラディアン

基調講演 「家族による養育から、社会による養育まで。」

社会的養護の真ん中で里親養育を考える」

講師：山本恒雄氏（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 愛育研究会 客員研究員）

<地区だより>

鎌倉三浦地域里親会（通称 鎌三わか芽会）

1. 鎌三わか芽会の歩み

平成18年に横須賀里親会と湘南かもめ会の一部が合併し、鎌三わか芽会が誕生しました。鎌倉、逗子、三浦市、葉山町の三市一町からなる里親会です。15組からスタートした鎌三わか芽会は、現在22組の会となりました。鎌倉市14組、逗子市2組、三浦市3組、葉山町3組の里親が在籍しています。

- ・ 現在の委託状況
長期委託7組、特別養子縁組6組、三日里親2組、措置解除4組、未委託1組、実習中3組
- ・ 啓発活動
社会福祉協議会の夏祭り参加、施設夏祭り参加、大学での里親体験談発表、役所等での里親相談会等

2. 鎌三わか芽会の課題

- ・ 特別養子縁組里親と長期委託里親では、向き合う課題の難しさの質が違うところもありますが、共有できる課題を見つけて取り組んでいきたいと考えています。
- ・ 里親委託率3割目標が国の指針となりました。委託された子どもたちが穏やかにのびのびと成長できるよう私たちも里親としてより専門的な知識を学び、また里親会として里親が孤立し委託が不調に終わることのないように支えていきたいと思ひます。

3. 今年度の活動状況

- ・ 5/22 初めましてサロン 葉山町福祉会館
新しい仲間、元気な子どもたち、とても賑やかな一日でした。
- ・ 6/22 夏レク 油壺マリンパーク
お天気に恵まれイルカショーを見たり、かき氷を食べたり、一日楽しく過ごしました。



4. 今後のサロン及び研修会

- ・ 9/29 サロン（勉強会）鎌倉児童ホーム
鎌三児童相談所から講師を招いての勉強会
- ・ 11/9 サロン 場所は未定
先輩里親の体験談を聞いて…
- ・ 1/28 公開研修会 鎌倉児童ホーム、
「子どもの問題行動を理解する」 講師 植松春彦先生
…なんでこんなことするの？こんな時どうすればよいの？
子どもの思わぬ行動に戸惑うことはありませんか？ご意見ご質問募集しています。

○ 他地区の皆さんへ

わか芽会のサロン、研修会にご参加なさいませんか？
私たちと一緒に勉強したり、子どもの悩みについてお話ししませんか？
身近なところでは話しづらくても、他地区なら話しやすいということもあるのでは？
合同サロンもいかがでしょう？ご参加お待ちしております。

○ 連絡先 幸保愛児園家庭養育支援センター 木村 文

Tel : 046 (875) 1268 Fax : 046 (875) 2947



<地区だより>

西湘なでしこ会

なでしこ会通信

16年度 臨時特別号



はじめに****

西湘なでしこ会は、昨年末に新しい里親1組を迎え、13組でスタートしました。毎年1回会報誌「なでしこ」を発行して関係諸機関に配布したり、随時「なでしこ会通信」で行事予定や活動報告などを会員に伝達しています。

活動報告****

○箱根恵明学園「小涌谷子どもゲーム大会」 4月29日（祝）

毎年お招きいただき、今年も里親4名、里子2名が参加しました。開始直前の雨で急きょ屋内に変更になりましたが、学園の子どもたちや職員の皆さんと箸での豆つかみや紙テープを長くちぎる競争など、室内ならではのわくわくどきどきゲームを楽しみました。

○「小田原市子育て支援フェスティバル」 5月28日（土）【準備】29日（日）

子育てを支援する団体が一堂に会して、遊びや子育て情報を提供する大きなイベントに、毎年参加しています。事前準備から当日にかけて、児相や施設の職員さん、里親支援専門相談員さんやOBの方々など多くの応援団のおかげで、500本のかざぐるま工作のパーツを準備することができました。当日は、フェスティバルに5000名が来場。ひっきりなしに訪れる親子連れに作り方を説明するスタッフは休む暇もないほどで、500本はお昼過ぎには終了。会場のいたるところで、自分で作ったかざぐるまを手にする子どもたちの笑顔が見受けられました。里親啓発コーナーにも何人かお立ち寄りいただき、里親制度を一般の方々に知っていただくよい機会となりました。

○「月あかりの会」 7月22日（金）

おやじの飲み会ですが、里母も参加自由。お忙しい中、児童相談所所長さん、里親支援専門相談員さんもご参加くださり大いに盛り上がりました。お互いの親睦を深める第一歩となっています。

○パン教室 8月2日（火）

ふたりの里母が講師を務め、ちぎりパンとピザを焼きました。子どもたちが準備したサラダやスープとともにいただく焼きたてのパンは最高の味です。ピザは家へのお土産にしました。

本多一重



<地区だより>

県央里親会（通称 すこやか会）



すこやか会、それはとても楽しいところ、と思っています。

里親になって、委託を受けて、自分が里親としてこれでいいのだろうか？と思っていたときに同じ里親同士で話しができて、幅広い年代がいるおかげで先輩里親さんの話も聞けてとてもためになるし、何よりも安心感が湧いて次の機会が楽しみにになります。

こんな状況は里親だから、と言ってもとても恵まれているのではないかと思います。

普段の生活の中では、子育ての仲間や話し相手はどうしても子どもが同年代の親同士になりますし、子どもの年代を越えて子育ての楽しい話、苦労話、涙の感動の話などを聞けると言う場はなかなか少ないですね。何年か先にはそうなるのかなぁと思いながら、とてもためになる話を楽しんでいます。

年に数回のイベントも有りますが、そんな時は皆さんが積極的に動いていて、自分達で作っている自分の会だという皆さんの思いを感じます。一緒に勉強したり話したり遊んだり楽しいイベントです。

また、多くの人たちからのサポートも貰っています。先日行ったBBQでは児童養護施設さんやライオンズクラブさんからのスイカや飲み物等の差し入れをいただいたり、児童相談所からもくじの景品等たくさんのご協力をいただきました。

里親達が単独でやっているわけではなくて、皆さんのサポートの基に楽しい会が運営できているんだなぁと感謝です。

子どもたちもまたとても楽しんでいると思います。我が家の小1の娘は「今週は里親会のイベントいくの？」と楽しそうに聞いてきました。

里母同士の話し合いがどうしても多くなりがちですが、今後は里父同士の集まる機会も増えていければいいなぁと考えています。里父の皆さま、楽しみましょう。

こんな会はいったいどの様にして始まって今まで続いてきたのだろうか？と思う事もよくあります。

これから先の将来において里親数が今よりももっと増えても、この楽しい会がより楽しく続いていけるように少しでもお手伝いできればと思っています。

矢野敏昭



編集後記

今年度より編集委員が交代し、会報も一新してカラーでお届けします！

「地区だより」は今回拡大版としてそれぞれの会の特徴を活かして仕上げました。活気にあふれて楽しそうな様子が各会から伝わってきます♪（西）